

2014 高原沼情報

NO. 1
第9号 (9月22日)
発行: ヒグマ情報センター

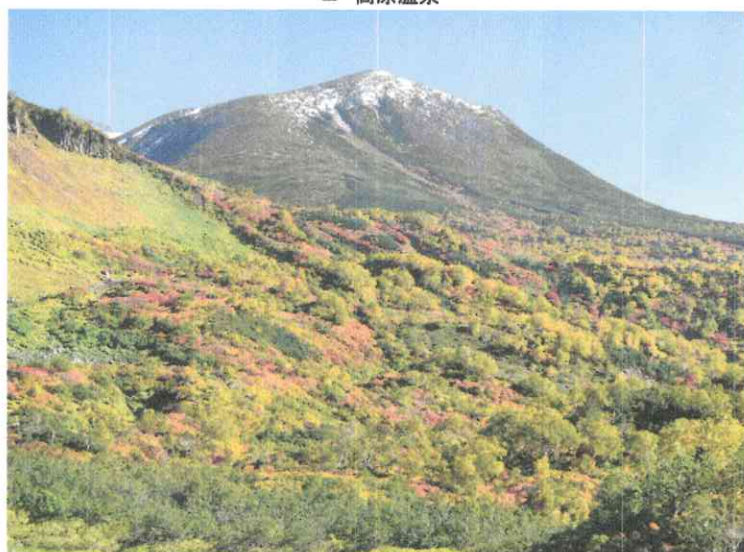
沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①紅葉の見頃を迎えた緑沼です。先週と同様、太陽恋しの日々が続いています。人々も紅葉に負けないような色とりどりのレインウェアを着て、紅葉狩りを楽しんでいました。(9月19日)



②三笠新道、空沼周辺を遠望する。色の波に心、洗われます。登山者が粉砂糖のような雪が残る緑岳を指差し、「チョコレートケーキみたい!」と言いました。「五色の波に浮かぶチョコレートケーキ」何て詩的な表現でしょう。(9月21日)



③湯の沼のハイオトギリも気品ある色に染まってきました。枯れゆく草地に花束のように浮かび上がっています。何本もはえているように見えますが、これらは地下茎でつながった一つの個体です。(9月20日)



④樹林帯では二種類のカエデがコントラストをなしています。ミネカエデ(左)とオガラバナ(右)です。黄色く色づくミネカエデに対し、オガラバナは朱色に染まります。葉の形は似ていますが、この時期は区別が容易になります。(9月19日)



⑤道の上に、クマの糞がありました!と報告してくれる方が多くいますが、これはシカの糞です。よく見てみてください。ドングリより一回り小さいくらいの粒が、多数くっついて団子状になっています。(9月20日)



⑥遅れ気味だった式部沼もきれいになりました。上から見下ろすのもよし、沼のほとりから見るのもよしです。ここから見える白雲岳避難小屋周辺は真っ白な世界です。(9月20日)



⑧コース状態は田んぼのようなぬかるみが多くなっています。長靴で歩ける人は長靴の利用を勧めます。決して植物を踏みつけて歩かないようにお願いします。また、滑りやすいところがありますので注意して歩いてください。(9月20日)



⑩新雪が降った沼コースの雪の上にヒグマの足跡がありました。9月に入り、ヒグマの出没もめっきり減りましたがまだ徘徊しているようです。ヒグマ対策はしっかりして登山をしましょう。(9月18日)



⑦チシマザクラは枝の外側の方にある葉ほど紅葉が進んでいるようです。一斉に芽吹くこの木の葉は、外側についているものほど外気の変化の影響を強く受け、早く紅葉するのだといわれています。(9月20日)



⑨20日、21日とコース1周を開放できました。1周開放は天候やヒグマの出没状況で変わります。右コースは、急坂あり、渡渉ありで難易度が高いです。山歩きに自信のない方は、左コースの往復を勧めます。(9月18日)



⑪先日、滝見沼の紅葉の美しさに思わず涙が出たという、女性がいました。ここ数年、毎年沼巡りコースに来ている人でした。このような人に愛される大雪高原沼の素晴らしさを改めて思い知らされました。(9月21日)

2014 高原沼情報

NO. 1
第7号 (9月2日)
発行：ヒグマ情報センター

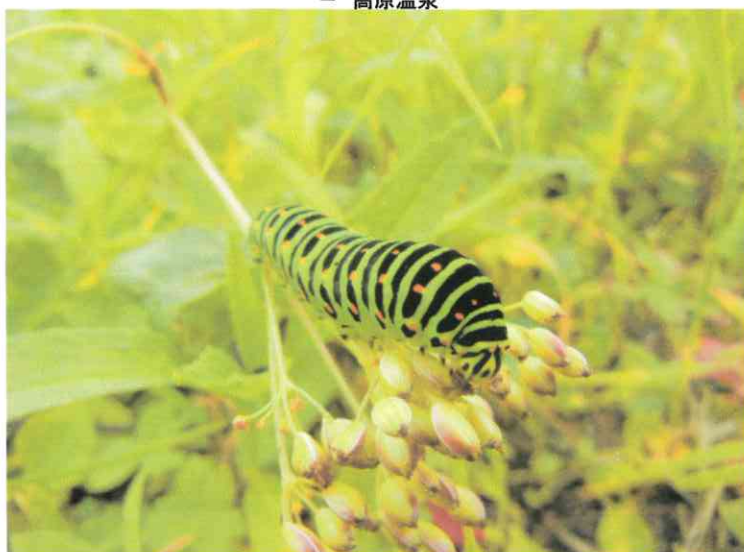
沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①待てど暮らせど現れないヒグマ、登ってこない人、最後の夏空、色づき始めた大学沼でほんとに戯れてくれるのはハナアブ達だけです。花の代わりになるのでしょうか、ぼくの体を根気よく舐めていました。(9月1日)



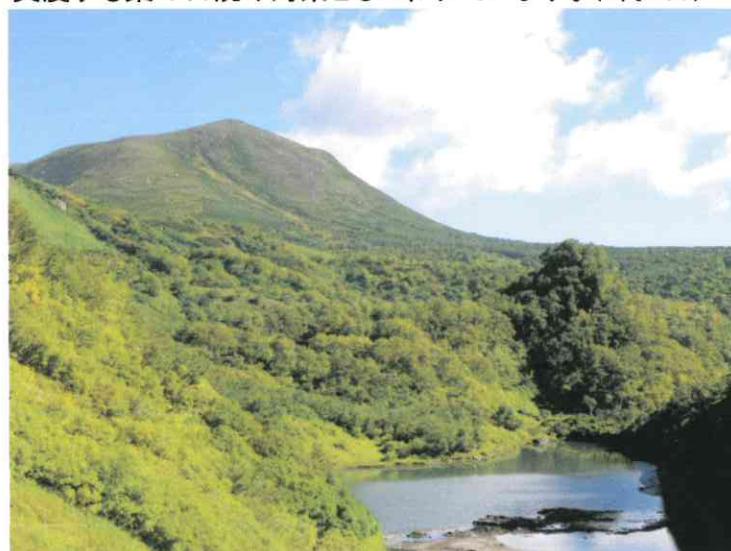
②式部沼で見つけたキアゲハの幼虫です。大きさは4cmほどでセリ科の植物を好んで食べ、ハクサンボウフウやチシマニンジンがある草地でよく見かけます。これから繭を作り長い冬を越します。(8月31日)



③湯の沼の手前で、ミネカエデの幼樹が真っ赤に染まっていました。通常ミネカエデの葉は秋になると黄色くなるので、このように紅葉する葉は珍しいです。赤くなるのは、冬支度する葉の日焼け対策ともいわれています。(9月1日)



④早朝、駐車場から高根ヶ原東斜面をのぞくと、シカの群れが多く見られるようになりました。50頭ものシカを見ることができます。斜面で活動するクマが減り、シカが大手を振って闊歩しています。(9月2日)



⑤緑岳の風衝地は真っ赤に染まっています。緑岳のタスキのウラジロナナカマドも5割ほど紅葉しています。紅葉は徐々に、雪壁沢まで降りてきています。白雲周辺のウラジロナナカマドもピークを迎えているそうです。(9月1日)



⑥高原ピークでは、ヒグマの餌にもなるウラジロナカマドの実が着実に色づいてきました。花の咲く順番と同じく、上部の実ほど早く成熟が進んでいます。これらは雪融けの早さの影響です。(9月1日)



⑦花の時期には頭を垂れて咲いていたコヨウラクツツジが実をつけ、その花柄(かへい)が背を伸ばして上を向いていました。「あれ、花は下向いてたのに!」森歩きのちょっとした発見です。(9月1日)



⑧歩道に横たわる浮石をどかしたら、いました、15cmにもなる大きなエゾサンショウウオです。立派な大人です。冷え込む朝は彼らにはこたえるでしょう。日が当たり動き出しましたが、またも石の下にもぐりこみました。(8月30日)



⑨アキアカネです。7月ごろに平野部で羽化したあと、一度涼しい山地で過ごします。そして、秋になると山を下り、繁殖します。オレンジ色だった体も赤くなり、里に秋を知らせに行くことでしょう。(8月29日)



⑩紅葉が始まりました。大学沼では現在、昨年より1週間早い色づきです。既に緑沼周辺でも色づく木々があります。滝見沼の現在です。あの色鮮やかなタペストリーになるのはいつでしょうか。(9月2日)



⑪8月27日、30日と一般入山者のクマの目撃がありました。27日はセンター近くのミズバショウ群落を逃げるクマ、30日は緑沼で対岸に現れたクマが目撃されました。29日にはスタッフが緑沼近くの沢で約10mの距離で遭遇しました。森の中は十分に気をつけて歩いてください。(9月1日)

2014 高原沼情報

NO. 1
第6号 (8月23日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、**レクチャー**を受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①雨の一日、朝の一瞬の晴れ間にコース入口の森に虹が架かりました。森が「人よ、早く戻って来い。」と言っているようでした。(8月20日)



②ヤンベタツ川(ヤンベタツ川)の橋がやっと修復されました。8月23日より、沼巡りコースを再開します。基本コースは緑沼経由高原沼の往復になります。日によってはコースが変わりますのでヒグマ情報センターで確認してください。(8月22日)



③コース全域でコガネギクが見頃になっています。夏も終わりに近づき、花も少なくなり秋の気配が漂い始めました。あと1ヶ月も経つと紅葉も見頃です。(8月21日)



④雨のバショウ沼です。森の中に佇んでいるといった雰囲気沼です。今は水草が水面を飾っています。岸の白い花はチシマニンジンです。森の中には同じセリ科のミヤマセンキュウが目立ちます。(8月23日)



⑤ヤンベ分岐付近でミネカエデが種をつけていました。種には大きな羽根がついていて、種が落ちると、プロペラのようになると回り、風に乗って遠くへ運ばれるという仕組みです。(8月21日)



⑥鏡のようになった水面にコウモリ雪渓が映りました。今まさにその名のとおり、コウモリの姿を現しています。去年は残雪が多く、紅葉時期でもコウモリの形が見られましたが、例年は夏にその姿をあらわにします。(8月22日)



⑧高原ピークではナキウサギがせっせと冬の食料を巣穴に運んでいました。運び終わると入口で縄張りを主張するように鳴いていました。これから来る長い冬に向けて大忙しです。(8月21日)



⑩ここ数年、ウラジロナナカマドの虫食いが目立ちます。ヤナギホシハムシという甲虫の幼虫の仕業です。鴨沼近くのものは枯れ木の様相を呈しています。紅葉の名所ではあまり増えてほしくないものですが…。(8月22日)



⑦今月半ばからイスカが見られるようになりました。松の実を食べる姿が観察できます。同じく、松の実を食べるホシガラスも目にします。また、高原温泉の秋の使者、クマゲラが22日にセンター近くの森で目撃できました。(8月18日)



⑨緑沼周辺でエゾオヤマリンドウが咲き始めました。沼コース、最後に咲く花です。青いろうそくのようなです。まだ蕾のものも多いのでしばらく楽しめるでしょう。(8月23日)



⑪8月18日以降、高根ヶ原東斜面でヒグマの目撃がありません。しかし、日中に歩いたヒグマの足跡の発見があいついでいます。ヒグマとばったり出会わないように、人がいることを声や音でヒグマにアピールしてください。写真は木道についた足跡で、発見前30分以内のものでした。(8月19日)

2014 高原沼情報

NO. 1
第5号 (8月5日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①落石が沼に浮かぶ氷に乗って漂流していました。この岩はもう湖底に沈んでいます。大学沼の残雪は対岸にわずかに残るだけになりました。(7月31日)



②ヤンベタツ温泉に向かう道の脇で、エゾイラクサの花が咲き始めています。この草は随所に刺激物を含んだ棘をまとい、触ると化学的な痛みを感じます。道中、化学的な刺激にお気をつけ下さい。(8月5日)



③緑沼でエゾイトンボが飛び始めました。体長が3cmほどの小さなトンボです。小さいながらも美しい瑠璃色が目に付き、つい目で追いかけてしまいます。これから沼の周りでは数種類のトンボがたくさん飛び回ります。(8月3日)



④ヤンベ分岐の階段で見つけたニホントカゲです。縞模様と玉虫色の尻尾が美しいトカゲです。晴れた日の木の上で気持ちよさそうに日向ぼっこをしていました。変温動物である爬虫類はこうして体を温めています。(8月2日)



⑤湯の沼の先の道でダイセツトリカブトが咲いています。名前の由来は、舞楽の衣装に用いるかぶり物に似ているためだそうです。海外でも同様にアメリカでは「僧の頭巾」、ノルウェーでは「オーディンの兜」と呼ばれています。(8月3日)



⑥コースオープン当初から、大学・高原沼周辺では様々なハナアブ類を目にします。この大きな姿はシロスジベッコウハナアブです。スズメバチの巣に寄生して育つそうです。はて、この子の「故郷」はどこにあるのでしょうか・・・(7月28日)



⑦ヤンベタツ川を渡ったところではクロウズゴの実が熟しはじめています。まだまだ暑い日が続いていますが少しづつ秋にちかづいていることを実感します。(8月3日)



⑧昨晚からの大雨でヤンベタツ川が増水し、コースを閉鎖しました。橋も壊されてしまいました。橋の復旧は今のところ未定です。復旧まではコース閉鎖になりますのでご了承ください。(8月5日)



⑨緑沼の夏姿です。ヌマハリイが水面から顔を出し、花をつけています。沼コースは食事場所を指定しています。食事は緑沼か大学沼をお願いします。コンロの使用は禁止になっています。(8月4日)



⑩これまでのヒグマの活動を振り返ってみると大型のオスのオンパレードでした。発情したメスが複数のオスと行動するのを過去にも観察しているので7月3日に交尾をしたメス(右の写真、左側の金毛のクマ、識別名ミイ)が原因かと思われます。ミイもここにあげた4頭のオスたちと行動を共にしました。大型のオスは目を怪我したものや、片耳がないものもありました。争いは目撃しませんでした。オス同士が間合いを取りながらも近距離で行動する姿も観察できました。これからは別のクマたちが定着し、高根が原東斜面の短い夏を締め括ってほしいものです。



8月4日から5日にかけての大雨でヤンベタツ川の橋が倒壊



9:51

8月5日、最大の増水時。
流された橋の手すりのすぐ下まで増水。



14:06

水の濁りも薄くなり、水量も減るが橋は倒壊されていた。



2014 高原沼情報

NO. 1
第4号 (7月25日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①沼めぐりコースの目玉のひとつ、タニマスミレが鴨沼近辺から大学沼の間に咲きました。一番早いもので咲き始めは7月18日です。緑沼にも3つ、花が咲いていました。(7月23日)



②この時期、緑沼やエゾ沼でよく見られるエゾサンショウウオの幼生です。観察するにはエゾ沼が最適です。ただし、エゾ沼の増水がもう少し続きそうです。通行には充分注意してください。(7月24日)



③大学沼です。ようやく雪が解けて姿をあらわしてきました。ベンチもあり、クマを見ながら休むにはもってこいの場所です。先日、クマ目当ての人がクマが出てこず、昼寝をしていました。(7月25日)



④去年はほとんど見る事がなかったギンリョウソウです。今年は所々でポコポコと咲いています。肉質は硬く半透明、なんとも不思議な植物です。0.6kmの道標から50mほど進んだ付近で見られます。(7月24日)



亜成虫。
羽根がクリーム色

成虫。
羽根が透明。

⑤ヤンベ分岐付近で見つけたフタスジモンカゲロウです。幼生時代を水中で過ごすカゲロウの仲間は、羽化をすると1度、亜成虫と言う成虫そっくりな姿になり、もう一度脱皮し、成虫になる不思議な生態をしています。(7月24日)



⑥コースのあちらこちらでチシマノキンバイソウが咲き出しました。大ぶりの花で目立ちます。ミヤマキンポウゲと共に黄色の花がコースを彩っています。(7月23日)



⑦高原沼が沼であることの兆しが現れました。沼を覆う雪に水が浮き、亀裂が入りました。緑岳の眺望が一番すばらしい場所です。対岸に見えるのは沼めぐり開拓の人、立岩吉松氏の名が刻まれた立岩です。(7月25日)



⑧10時02分、落石があり、高根が原の崖から歩道にまで転がってきました。リュックがある岩は高原沼上のヒグマの監視場所で、危ないところでした。大学沼から高原沼は落石に注意してください。(7月23日)



⑨大学沼から高原沼にかけてのウコンウツギやウラジロナカマドの花々に蜜を求めて多くの虫達が忙しそうに飛び回っています。写真はコヒオドシです。本州では高山蝶で知られ、最近では生息数が減っているそうです。(7月24日)



⑩「わっか」が3頭の子供をつれて、帰ってきました。2008年から観察できているクマで、我々も「わっか」に再会できて感激しています。観察を始めて、3度目の子育てになります。3頭とも順調に成長することを願っています。(7月16日)



⑪最近、大型のオスグマばかり見えています。こんなに巨グマの観察ができるのは初めてのことです。ただし、若いクマや親子グマは影を潜めています。オスはさすらいもので、皆、また帰って来るでしょう。(7月23日)

2014 高原沼情報

NO. 1
第3号 (7月15日)
発行：ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①土俵沼の前にピンクの彩が添えられました。緑沼前後にはこれから次々とエゾコザクラの群落が見えます。白や黄色の花の多い、このコースでピンクで染まる景色は今の時期だけです。(7月15日)



②多くのミズバショウ群落では、花期を終えて葉が成長しています。雪が解けて芽生えてからの成長速度は、土がじめじめしているほど速いようです。ミズバショウに混じり、近年はハンゴンソウの葉っぱも目立ってきました。(7月15日)



③緑沼の300mほど手前に佇む土俵沼でも、緑の色が濃くなりました。他の沼よりも小さいながら、わき道の先にあるため森閑としており、景色には落ち着きがあります。個人的に一押しのスポットです。(7月14日)



④エゾマツのてっぺんでウグイスが鳴いていました。いつも、やぶの中から「ホーホケキョ」でなかなか目にするのができません。結構長い間、てっぺんにいましたが雨がザーッと降り出すとやぶに帰ってしまいました。(7月15日)



⑤エゾ沼の歩道は、現在、雪解け水による増水で登山道が一部水没しています。歩道のふちが崩れやすくなっています。足元が濡ると道が見えなくなり、たいへん危険です。慎重に通行してください。(7月14日)



⑥大学沼の斜面のウコンウツギの群落が見頃になってきました。雪解けの順番に花が開くので、もうしばらく楽しみましょう。最近はこの斜面でヒグマが闊歩しています。(7月14日)



⑦エゾ沼のチシマザクラが満開です。例年に比べ10日ほど早い開花でした。しかし、「日本一遅い桜」に変わりはありません。鴨沼から大学沼にかけてのタニマスミレはもう間もなく開花するでしょう。(7月15日)



⑧ヒグマ情報センター前の駐車場からヒグマが観察できた場合は、一般の方にも熊の姿を見ていただけます。本日も大学沼上方の斜面で草を食む熊に「すごい!」「こんなにはっきり見えるんだ」と皆さん驚かされていました。(7月15日)



⑨大学沼と高原沼の間は落石に注意してください。稜線に張り付いていた雪も大分解けてきて、崩れそうな岩が見えてきています。非常に大きな岩が落ちることもあるので気をつけてください。(7月14日)



⑩ヒグマが食べたミズバショウです。手で葉を倒して根元を食べています。コース沿いにはミズバショウが多くあり、ヒグマの食物になっています。森の中では鈴、声など人がいることをしっかりアピールしてください(7月14日)



⑪大学沼から見える斜面に親子のクマが連日、姿を見せています。昨年は1回しか、親子の観察が出来ませんでした。今年は長時間の観察が出来ています。残雪で遊ぶ、子供の愛らしい姿も見せてくれます。(7月11日)

2014 高原沼情報

NO. 1
第2号 (7月5日)
発行：ヒグマ情報センター

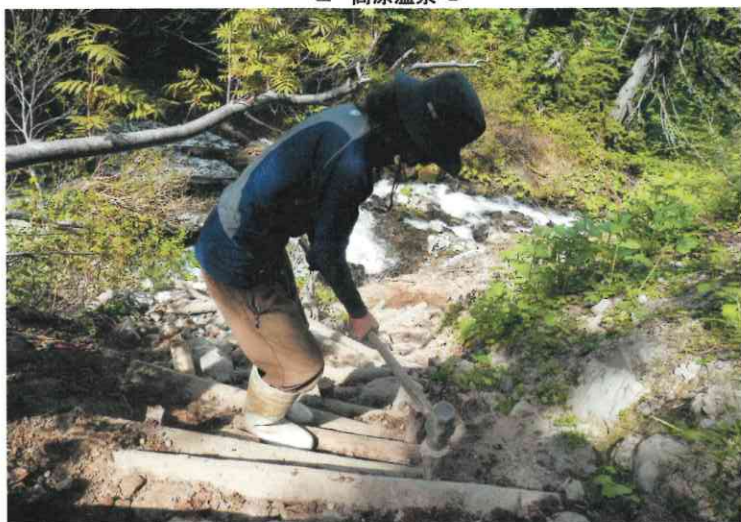
沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。

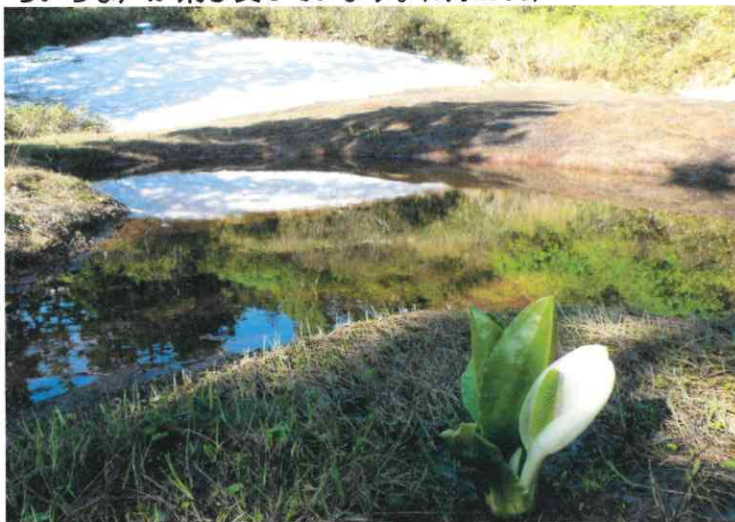
【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①高原温泉に着いた途端、耳にするのは鳥たちのさえずりでしょう。高原温泉近くではコガラ(写真)、キビタキ、アオジ、クロジなどの声が聞こえます。コースを進めば、さらにいろいろな声が飛び交っています。(6月29日)



②緑沼、一步手前のショウコの沢の階段を補修しました。地盤が弱く、毎年補修が必要なところ。狭い上に、急な上り下りになるので通行には注意してください。ここまでの道のり、ヤブ蚊が発生してきました。(6月29日)



③センター近くのミズバショウは既に葉が巨大化していますが、1.5kmから湯の沼周辺までがこれから見頃を迎えます。これから、土俵沼辺りから上は融雪と共にいろいろな春の花が楽しめます。エゾコザクラも咲き始めました。(7月4日)



④大学沼対岸のウラジロナナカマド達をよく見ると、高所の木は花が枯れていますが、その下では満開、さらに下では芽吹いたばかり。雪に埋もれていた期間の差によって、お隣同士生活の進み方もずれているのです。(7月4日)



⑤エゾ沼への登り道です。スノウブリッジが崩れ、下の歩道は沢状態です。この下部はこれから雪が割れてきます。段差が大きく、踏み抜きにも注意です。また、エゾ沼も増水中で、その残雪歩きにも注意が必要です。(7月4日)



⑥エゾノリュウキンカの名所のひとつ、湯の沼に流れ込む黒の沢です。この沢の水源は湧水で1年中、涸れることはありません。今年のリュウキンカはシカに食べられて、花の数が少なく残念です。(7月4日)



⑧さえずるビンズイです。シーズン当初、この木ではよくルリビタキが鳴いていました。最近ではビンズイが1日の多くを過ごしています。ビンズイが出かけるとミソサザイが隙を突いてさえずっています。(7月4日)



⑩三笠新道を歩く。(7月1日)



⑦太陽のまわりにダブルの虹ができていました。とても美しい現象です。天候の急な変化を知らせるサインとの話もあります。午後からは雲って太陽が隠れてしまいました。ちなみに雨は降りませんでした。(6月28日)



⑨非常に珍しいヒグマの交尾を観察できました。2頭仲良く草を食んでいると思ったら、おもむろにオスがメスに乗りかかりました。2分ほどの行為に及んだあと、彼らは何事もなかったかのように再びお食事を始めていました。(7月3日)



⑪三笠斜面雪渓で涼をとる。(7月2日)

【三笠新道の通行止め及び高原沼コースのコース規制について】

今年は、既に三笠斜面はヒグマの採食場として十分な草地が広がり、斜面と空沼側のブッシュの間の残雪も距離が短くなり、ヒグマが往来しやすくなっています。7月1日からは連日2頭のヒグマが採食活動をしている為、7月4日から10月のシーズン終了まで、三笠新道は通行止めとなりました。また、高原沼沼巡りコースについても、紅葉シーズンまでは、緑沼経由、高原沼及び大学沼までの往復コースとなりましたので、ご了承ください。

2014 高原沼情報

NO. 1
第1号(6月25日)
発行: ヒグマ情報センター

沼巡りコースの入山規制について

入山受付7:00~13:00まで。下山時間15:00までです。この時間外は入山できません。なお、入山前に必ずヒグマ情報センターで入山届けを記入し、レクチャーを受けてから入山してください。

【高原沼巡りコース】○数字は写真の位置



①雪解けが進み、地面が出てきたところから次々と花が咲き始めました。写真はミツバウレンです。他にエゾイチゲやコマヤマカタバミなどおもに白く小さな花が歩道脇を彩っています。(6月24日)



②センターから500mほどの歩道上についたヒグマの足跡です。この季節、ヒグマは樹林帯や沢沿いでフキやミズバショウを食べています。見通しの悪い場所や沢沿いでは、鈴などでしっかり音を立てて歩きましょう。(6月23日)



③残雪が多いコースでは、樹林帯や霧などで視界のきかない時に、道に迷いやすいです。目印のピンクテープを見失わないようにしてください。雪溪の下は空洞になっていて踏み抜くことがあります。注意して通行しましょう。(6月24日)



④よく晴れた朝の緑沼です。このあたりは雪が少なく緑沼の看板がもう出ています。去年より約10日ほど早い雪解けです。毎年、同じように見えてやっぱり違う自然の景色は、何度見ても飽きません。(6月24日)



⑤雪溪上に産み落とされたエゾアカガエルのたまごです。意図して産んだのか我慢できなかったのか...キタキツネなどにいたずれされて無事に孵化したところを見たことはありません。そっと観察していきたいです。(6月24日)



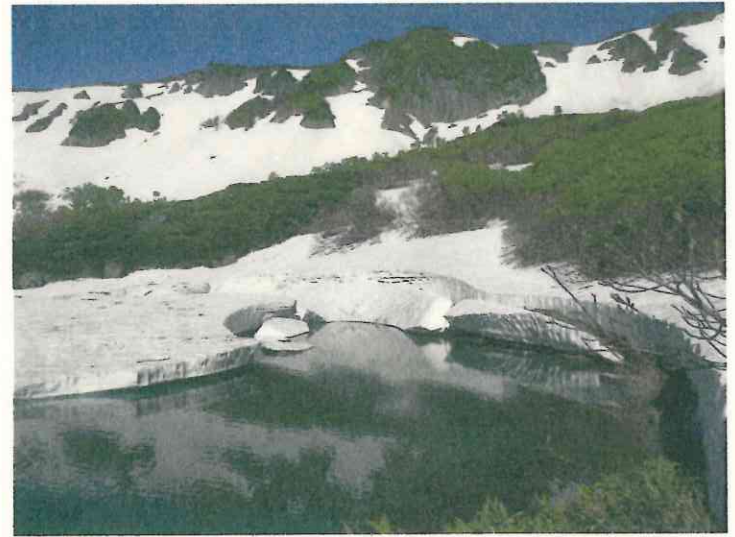
⑥鴨沼を襲った雪崩の跡です。ダケカンバがなぎ倒されて鴨沼に押し寄せています。高根斜面からは、かなり距離があるのに雪崩のすさまじいパワーを感じます。(6月24日)



⑦大学沼の景色です。今年は全体的に雪の少ない年ですがこのあたりは別格のようです。しばらく沼が出てくる気配はありません。(6月24日)



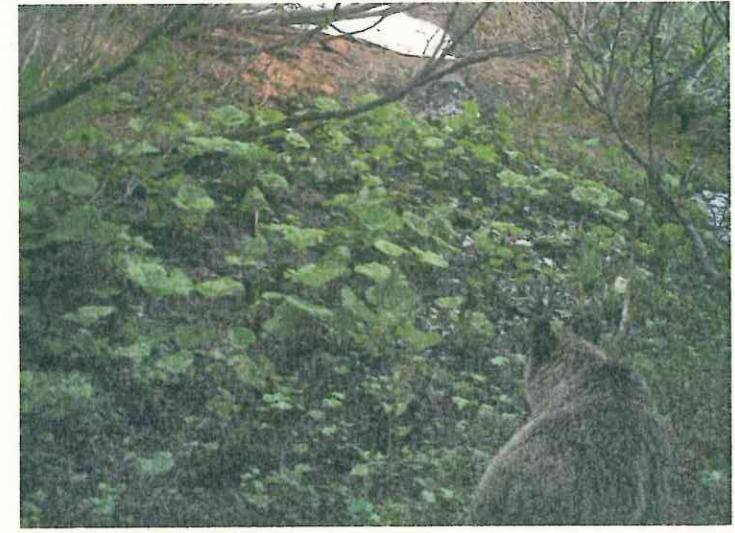
⑧高根斜面の雪溪上で遊んでいたエゾユキウサギです。茶色い夏毛に衣替えをしています。このコースはヒグマをはじめエゾシカやキタキツネ、ナキウサギなど里の動物から高山の貴重な生き物までたくさん生息しています。(6月23日)



⑨空沼です。雪が割れ沼に落ちている景色は独特でこの沼ならではの景色です。青々と澄んだ雪解け水を沼いっぱい、湛えています。この時期、沼コース最大の沼です。(6月24日)



⑩右コースの沢沿いでは、キバナノコマノツメが見頃になっています。右コースは急坂や渡渉など初心者には少し難しいコースになっています。コース状況などセンターでレクチャーを受けて安全に山歩きをしましょう。(6月24日)



⑪右コース1.5km付近のセンサーカメラに早速ヒグマが撮影されました。時間は午前10:30ごろです。このクマは移動のみでしたがこのあたりはヒグマのエサが豊富で食痕など痕跡が多く確認される地点です。(6月23日)



⑫ 緑沼手前のショウコの沢の歩道状況です。階段は崩れて歩きにくい状況です。落石などに注意し、安全に通行してください。階段は急斜面の場所となっておりますので、上り下りは十分に注意してください。(6月24日)



⑬ 高原ピークからの三笠新道斜面です。現在、三笠新道の雪渓は高根ヶ原までつながっています。上部は急斜面ですので、天候が悪い場合の利用は控えて下さい。マーキングは一切ありませんので、濃霧の場合は全くわからない状況となります。また、アイゼンなどを携帯し、経験者の同行の上、通行されることが望ましいです。なお、このコースはヒグマの採食活動が、三笠新道付近で見られてからは、秋まで通行禁止となります。

6月25日現在、三笠新道の斜面は草地がだいぶ、広がってきていて、ヒグマの活動が間もなく、見られる状況です。